

心輝け 子どもたち!

「なごやING（いじめのない学校）キャンペーン」・人権週間に活用できる実践紹介

各学校では「なごやいじめのない(N)学校(G)づくり」に向け、様々な活動に取り組んでいることと思います。

また、12月4日から10日の1週間は、「人権週間」として位置づけられています。道徳では、いじめ防止や人権尊重にかかわる指導内容として、「勇気」「思いやり」「信頼・友情」「男女の協力」「公正・公平」「正義」等があります。これらの指導内容の資料を使った実践を2つ紹介します。この他にも「名古屋市小・中学校教育課程 道徳」には、人権教育にかかわる主題名に「人」の記号が記してあります。参考にしてください。

小学校4年「ぼくだってこわい」 1-(3) 勇気

出典：明るい心4年（県教振）

資料の概要

広志は、最近和男にいじめられている。頭痛を訴えて学校を休んだ広志の元へ、友達の達也が見舞いに来た。達也は広志に、明日は二人で一緒に和男のいじわるをやめさせようと呼び掛ける。

授業の展開例

よりよく他者とかわるためには、自尊感情の高まりという土台の上で、互いの考えや気持ちを伝え合い、分かり合うためのコミュニケーション能力を身に付けることが大切だと言われています。この資料を通して、家族や友達の支えを軸に、相手に自分の気持ちを伝えることの大切さに気付かせることができます。

資料の中で、広志は最後まで勇気が出せません。そこで、和男を怖がる広志の気持ちに十分共感させることが大切です。ポイントになるのは、お母さんに「勇気を出してはっきり言うことも大切よ。」と言われたときと、達也に「ぼくだってこわいけど、一緒に言ってみよう。」と言われたときです。広志の気持ちに寄り添いながら心の揺れをじっくり想像させ、正しいことは勇気をもって主張することの大切さを話し合うとよいと思います。

主発問例



一生懸命に話す達也の言葉を聞いて、広志は心の中でどんなことを考えているでしょう。



中学校2年「一人じゃないよ」 1-(3) 責任

出典：明るい人生2年（県教振）

資料の概要

「わたし」は、「いじめる側」と「いじめられる側」を経験し、いじめられた人の心の痛みを味わった。いじめを受けているAさんを見たとき「わたし」は、「自分ができること」を考え「あんたは一人じゃないよ。」と手を差し伸べた。

その後、学級で「いじめ」について話し合い、学級からいじめがなくなった。

授業の展開例

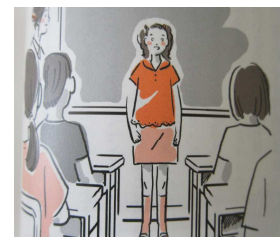
中学生になると、友達との人間関係で悩むことが多くなります。友達に嫌われたくない、いじめにあいたくない、友達を失いたくない等の気持ちから、いけないと思いながらも、強い意見をもつ人に従ってしまうこともあると思います。

そこで、資料を通して「いじめる側」「いじめられる側」の両方を経験した「わたし」の心の変化に着目させます。その後、Aさんに言った「あんたは一人じゃないよ。」の一言に込められた「わたし」の強い思いを考えさせます。いじめのない学級・学校にするために、「今、自分にできること」や「学級に対する自分の思い」などを記述させてもよいと思います。

主発問例



「わたし」はどんな思いから「あんたは一人じゃないよ。」と言ったのでしょうか。



心のアンテナ

「道徳の時間」の指導の充実を願って

鳴子小学校長 福中 好幸

「公共心」や「規範意識」の低下が叫ばれる現在。他人と協調し、自分を律して社会生活を送ることのできる児童生徒を育てなければなりません。

家庭での躾をはじめ、教科指導や学校の生活、体験活動などで生き方の基本となるものが部分的に個別的に指導されています。これらを児童生徒全員場で補充し、深化し、系統的・計画的に指導していく(統合)のが「道徳の時間」の役割です。

道徳の時間は、概ね、子どもたちは「どう生きることが正しいかを知っている」という認識が大切です。「どうすると善いか」では、意味がありません。「分かっているけどできない自分」を内省させたり、「弱さに負けずに頑張っている自分」に気付かせたりすることが大切と考えています。

私(教師)を含め、人は、誰でも「心の弱さ」をもっています。「利害損得」「快を求める」などの私利私欲の感情です。誰の心にもあるこの感情を判断に迫られたとき、どう抑えていくかが重要となり、ある意味で、これを抑える力が道徳的実践力です。道徳の時間の指導は、主人公の姿を借りて「心の弱さ」をはじめ、多様な思いを語らせることが大切です。また、自分の内にある「弱さ」を自覚させ、その判断や心情がもたらす影響を十分に考えさせることや、「弱さ」に負けない強い気持ちに共感させることで、勤勉努力・規則尊重…などの道徳的価値が「自分にもみんなにも必要なものである」という内面的な価値の自覚を深めていくのです。

児童生徒が自らの力で「よりよい生き方」を選択できるように、道徳教育、とりわけ「道徳の時間」の充実を、切に願って止みません。

子どもが“ときめく”道徳の授業

10月4日(金)に、授業づくり部会の授業研究が行われました。

主題名：「察する心」2-(2)思いやり・親切
資料名：『こわされたタワー』(明るい心3年)
※指導案はHPをご覧ください。

授業の中に、「発問の工夫」「板書の工夫」「自己の生き方を考えるための工夫」を取り入れ、子どもの集中力が持続する道徳の授業を目指しました。

【背面黒板の活用】



【壊した側の気持ち】

前後の黒板を空中でロープでつなぐ



「二人の気持ち
が近付いたね。」

【前面黒板の様子】



【壊された側の気持ち】

子どもたちは、よしおさんの持っている思いやりに気付くことができました。そして、自分とよしおさんを重ねあわせて、これからの生き方を目を輝かせて発表することができました。

よしおさんのように、友達にやさしくしていきたいな。

